

第 1219 回放送分『肝臓がん』2 回目

ゲスト：川崎洋太ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「肝臓がん」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 川崎洋太（かわさき ようた）ドクターです。
川崎さん、よろしくお願いいたします。

川崎洋太Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は、私たちの体にとって重要な肝臓ですが、肝炎を起こすこともあり、その原因としてはウイルス、アルコール、そして最近多いのが脂肪肝と伺いました。
脂肪肝から肝硬変、そして肝がんへとつながるので、生活習慣の見直し、特に運動が大切であるとのことでした。今日は何についてお話しいただけますか。

川崎洋太Dr.

今週から3回にわたって肝臓がんについてお伝えいたします。
肝臓にできるがんは、まず大きく2つに分かれます。肝臓自体から発生する「原発性」のがんと、他の臓器のがんが転移してくる「転移性」のがんです。
そして原発性のがんは、主に2種類あります。
今日はまず、原発性肝臓がんの1つ目、肝細胞がんについてお伝えします。

二見いすず

肝細胞がんですね。

川崎洋太Dr.

はい。原発性の肝臓がんのおおよそ9割が、この肝細胞がんです。先週お伝えしたように、肝炎が慢性化して慢性肝炎となり、さらに肝硬変へと進むことが、肝細胞がんの主なきっかけとなります。

二見いすず

そうなんです。どのような検査を行うのでしょうか？

川崎洋太Dr.

超音波、造影CT、MRI検査を行い、診断をつけます。

二見いすず

診断がついたら、どのような治療を行うのですか？

川崎洋太Dr.

治療法は色々あります。主な治療法は4つです。

まず手術は、がんのある部分を切り取る治療です。次に焼灼療法は、細い針を刺して熱でがんを焼き固める治療です。3つ目のカテーテル治療は、血管から細い管を通して、がん薬に薬を届けたり血管を詰まらせたりする治療です。そして4つ目が、飲み薬や点滴による薬物療法です。

二見いすず

患者さんによってどの治療を選択するか、変わってくるのでしょうか？

川崎洋太Dr.

はい。ただどれか1つというわけではなく、色々組み合わせて行うことが多いです。

そして、がんの部分だけではなく、肝臓全体がどれくらい元気に働いているか、いわゆる「肝臓の予備力」によっても、選べる治療が変わってきます。

二見いすず

肝臓の予備力というのは、どういう意味なのでしょう？

川崎洋太Dr.

肝臓は再生する力が強い臓器で、肝機能が元気な人であれば、肝臓の7割ほどを切り取っても、残りの3割が元気に働いてくれます。ところが、肝硬変などで肝臓全体が弱っている人は、ほんの一部、たとえば5パーセントを切り取るだけでも、残った肝臓が機能を維持できず、命に関わることもあります。

二見いすず

そういう意味なんですね。

川崎洋太Dr.

がん以外の部分の肝臓も元気である必要があるので、定期的に採血などをして、もし異常があればしっかりと検査することをおすすめします。

二見いすず

よく分かりました。

今月は肝臓がんについてお送りしています。

お話は鹿児島県医師会 川崎洋太ドクターでした。川崎さん、ありがとうございました。

川崎洋太Dr.

ありがとうございました。